

私たち「解体工事業」は今どんな位置まで来たのか、お話をさせていただきます。現場の安全についてですが、事故の件数は以前と比べると減少傾向にあります。しかし、事故は0にはならない、0を目指しているが、0にはならない、0を目指すの？と質問すると0は無理ではないのかと返ってきます。昨日もどこかの現場で鳶の人が感電で亡くなる事故がありました。そこでみなさんに言いたいのですが、安全を取り巻く現場の環境というのは、以前と比べるとすごく良くなっています。我々のグループも、良い状態の安全の設備が保たれていると思っています。では、何故事故は起きるのか、そこが問題で、人は一瞬の気の緩みや、慣れなど、要するにこちら側の問題であると思っています。私が安全の講習をする為に、講師の免許資格を取った時は今から約30年も前になります。その頃は、建設業で亡くなる方が全国で千何百人いました。講師陣含め皆とにかく1000人を切るように頑張ろうではないか、と皆さんが手を挙げました。しかしなかなか1000人を切ることが出来ませんでした。今では、約300人です。コロナの時は動きが止まった関係で、300人を切った年がありました。約300人弱まで亡くなる人の数が減りました。しかし、300人もの方が、建設関係で亡くなっているというこのジレンマみたいな事があります。そのほとんどが、昔とは事故の形態が変わってきています。昔は安全設備が疎かだった為、落ちて亡くなる方がいたり、機械の取り扱いのルールが定まっていなかった為、乱暴なことをして、そこから事故を起こしたりという事が多かったです。最近の事故の形は、やはり一番はうっかり、慣れ、横着な行動、よく現場などで言われている近道行動というもの、それらを原因にして事故が発生しているというのが多いです。そこで、みなさんにお願いしたいことがあります。現場に行った際は、とにかく気を張ってほしいです。立ち止まって動かない時は気を張らなくてもいいです。ただ位置を変える時、動く時は気を張ってほしいです。それらを見守る職長の方々は、声をかけて、気が緩んでいるところを部下が注意をする。そのような事をしてほしいと思います。

皆さんも、当然知っている話だと思いますが、木こりの話をします。高いところにいる時、棟梁は声をかけずに、徐々に降りてきて地面に降りますという時に、「足元に気をつけてください」と声をかける、それが基本なのではないかと思っています。とにかく気が緩んだ時に何かしてしまうのが人間です。下に多少凸凹があったとしても、ここは凸凹だから危ないと気を付ける人間は、しっかりと下を向いて凸凹をうまく避けて歩きますよね？そのくらいの凸凹大したことないと思って急ぐ人間が、たかが5センチの物に躓いて、転んで打ち所が悪く、骨を折ったりする。それが今の事故の型です。皆さん、くれぐれも現場の中で動いた際に、ここは家でも住宅でもなく、現場であるという事を、常に意識して常に気を張るようにしてください。ただ、常に気を張るという事は難しいことです。今の事故の型を止めようと思うと、お互いの声掛けと、皆さんの己の身を守るのだ、ここは危ないので己の身は己で守るのだ。という気持ちを持ち続けることが大切だと思っています。

安全の事について本来はもう少し喋りたいのですが、私たちの会社に取り組んでいる事についてお話をさせていただきます。皆さんもご存じだと思うのですが、能登半島地震が発生し、公費解体が始まりました。石川県の協会の皆様方が主となり、頑張っていますが、自分たちの手だけでは足りないという事で、石川県の会社様から我々に応援要請がありました。応援要請に応える形で、今日ここには居ない浅野一輝が職長となり、現在石川県の方で一生懸命、公費解体のお手伝いをしております。現段階では、

20人前後が毎日動いており、4班を色々な場所に配置し、壊しきったらまた次の現場に行き、動くということをやっていますが、順調なようで順調ではないといったところが、現実だなと思っています。約2万1000棟が、公費解体の対象物になっています。この前の新聞発表の中でもありましたように、半年以上が過ぎた現在で、4%しか進んでいない、これを足し算していきますと、今のままのペースでは、半年で4%、1年で10%であって、2年間続けたとしても20%しか出来ない。なので今のペースでは到底無理です。2年以内に完了する事は無理な話だと言われています。しかし現場の方々も石川県の行政の方も諦めている訳ではありません。ただ現実が目の前に迫って来ていて、これは無理だと思っているので、地団太踏みながら頑張っているという所です。浅野もその中心となって、4班をリードし、一生懸命働き、お客様からは良い評判を頂いているといったところです。先日も古田副社長と木村記子さんが穴水の方に出向き、浅野の景気づけをし、機嫌を取り、愚痴を聞き、帰ってきたところでございます。皆さん方は少し離れているので、彼と連絡が取れていない状況ですが、心の中で応援するという事は是非ともしてあげてほしいと思っています。いずれにしても彼らは、来年10月までという長期にわたる応援体制で行っています。現在は20人ですが、手を挙げて下さった下請け会社さんは、全部で50人みえます。向こうの受け入れ態勢を整えば、現在は20人ですが、手を挙げて下さった50人が行き、半年で4%しか進んでない工事を何とか2年で100%にいけるように、一生懸命働く約束してくれていますので、皆さんも陰ながら応援をよろしくお願いいたします。

次に、解体工事業界の話をして頂きます。木村の社員には定例会などで口にして、特に営業会議メンバーには月1回の会議で都度言う事ですが、解体工事業界が、皆さんの想像をはるかに超えて立場が上がってきているという事を分かってほしいと思っています。今のところは、皆さんが実感するところはないと思います。ただ、確実にポジションは上がっています。嫌な面ではいけばそのポジションが上がった為、解体工事で現場で事故を起こすと、今は簡単にSNSに晒されたり、大きな事故が起きた場合、かの有名なヤフーのトップの方に載ったりもします。だから立場が上がったから、全てOK、win-winだということはないですが、立場が上がったという事だけは認識してほしいと思っています。私は全解工連の副会長をやらせて頂いているのですが、昨日もその会議で東京にいました。国土交通省と今このような話をしているので、副会長達の意見も聞かせてほしい、この先の進め方について相談したいという事で集まってお話をしていました。業界内では、「僕たちが頑張っている中、協会は本当に頑張っているのか？」というような、我儘めいた悩みを持っている協会さんが沢山居て、そのような人達の苦情めいたものの処理をどうすべきか、という事も話し合いました。

さて、私たち解体工事業の管理監督者というのが、国土交通省になります。国土交通省とのパイプというのが、業界が独立する前は、無いわけではなかったが、細かった。細くて折れそうだったパイプが、今ではどんどん太くなり強くなって、影響力を持つようになってきました。皆さん方の何人かは対象になっていますが、登録基幹技能者という制度は、国が作ったものではありません。私たちの業界から、「この制度があり、解体工事業界でも作りたいのですが、国土交通省さんどうですか？」と訪ねて行きました。すると、国土交通省が、あなたたちがやってくれるの？それならば応援しますよという事で、手間と時間をかけ、当然頭も使い、それなりの講習会のシステムを作り、問題も作り、講師まで育て、講習の仕組み作りをしました。その仕組み作りにおいて、国土交

通省からの指示によって、学識経験者を入れてもらわないと困るという指示を受け、大学の教授だけでも5人以上メンバーに入れ、徐々に良いものを作っていました。その結果、国土交通省さんにその制度を認めていただきました。1回の講習では500を超える合格者を出し、国土交通省から高い評価をいただくことになりました。その評価が上がってかどうかは分かりませんが、取れるのかどうか分からなかった国土交通大臣表彰を受けることになりました。国土交通大臣からあなたに授与するので受け取りに来て下さい。とのことで、10日の表彰式に出席する為に東京に行ってきます。過去は私たちの業界からでは、国土交通大臣表彰というものはなかったです。しかし、業界が独立した後に、あなたたち熱心に取り組んでいますよね。候補者出したらどうですか？という事で一人出し、通りました。翌年もまた一人出したらどうですか？と言われ、出したところまた受けることが出来ました。今年は何が違ったのかというと、何回お願いしても1人の枠を2人、3人に増やしてくれなかった為、押し掛け女房ではないけれど、こちらから、2人エントリーしてみたらどうなのかという事で、2人のエントリーをかけました。歳の関係で木村が1番になったのですが、3つ下の副会長もいて、その人ももしダメであれば、来年に回せばいいという事で、2人エントリーする事になりました。そうしたらなんと二人とも受賞が決定し、初めてこの業界から国土交通大臣表彰を複数受賞することになりました。自己自慢しているようで気持ち悪いのですが、そうではなくて、お国の目は今、私たち解体工事業界にしっかりと向いてきている、しっかりと理解してくれている、しっかりと評価してくれている、ということをごさ方々に理解して頂きたいと思います。

その責任を果たす意味で、より一層いい仕事をしていかないといけない、より一層かたい仕事、目で見ただけでこの仕事は良い仕事だという事をやっていかないといけない、それが我々に課せられたテーマなのではないのかなと思います。ここまで解体の話をして、木村工業、Kanoa4は関係ないのかなと思うかもしれませんが、母体となるのは斫木村であり、その理解もして頂いて、とにかく動く現場で木村工業の現場Kanoa4の現場も、とにかく人の第一印象的の段階で、良い仕事をしているのだなということ、心掛けてやってほしいと思っております。良い仕事を続けていくと、確実に我々の評価は上がってきます。その評価が上がれば次のお仕事に繋がる、これが世の中の流れです。是非そこを一生懸命やってほしいと思っております。時として、請負業ですので、希望の金額で取れなかったりする。簡単なことを言えば、仕事を受けた段階で、この現場赤字だなと分かる現場も出てきます。しかし赤字だからと言ってそこで絶対に見栄えのところで手を抜くことはしてほしくないです。もっと強く言うのであれば、そんなことをするのならば僕が相手さんのところに行ってしまう。と言ってお断りをしてくる、それくらいの覚悟をもってやっていければと思っております。「武士は食わねど高楊枝」ではないけれど、とにかくお金が安かろうが、工期が短かろうが、良い仕事というのは必ずある。理想とする形は必ずある。それを追い求めていき、皆さんで進んで行ってほしいと思っております。

全解工連ではビジョンを作りました。スローガンも作りました。今は解体工事業という専門工事業ですが、それを専門工事ではなく、いずれ解体一式工事に変えていこうという思いを込めたものです。もっと言いやすくすると、ゼネコンと肩を並べようという思いで動いています。そうすると、皆さんの住む世界、働く世界も変わると思います。そのような事を夢見ながら良い仕事を続けていってほしいと思っております。

協議会の皆様方には、この前の初の挨拶の中でも言った事だなど思い返す事になるのですが、とにかく安かろう悪かろうの仕事というのは一番恰好悪いので、安いお金だろうがなんだろうが「かっこいい仕事」を続けるという事をけていけたらと思っております。皆さん方が、その良い仕事を通じて、特に安全面においてケガのないように、また特に怖いのが第三者災害ですので、自分たちのケガどころか周りにケガをさせないように事故しないように、そのようなことを心がけて毎日を過ごしてほしいと思っております。